

北九州市立中尾小学校
学校だより
令和6年6月1日号
校長 上 赤 義 人

学校教育目標
すこやかに、 おおらかに、
たくましく伸びる児童の育成

「あゆみ」の見方と目的～次につなげるために～

本年も毎学期の終業式に、子どもたちへ「あゆみ」を渡します。ここで、「あゆみ」の見方と目的について考えてみましょう。

各教科の観点別学習状況評価(いわゆる「たいへんよい」「よい」「がんばろう」)を行っています。各教科の観点は3観点(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)です。

ここで、3観点についてそれぞれ評価内容を説明します。



	評価内容
知識・技能	個別の知識及び技能の習得状況について評価する。また、それらを既有的の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかも評価する。 テストの点数や作成した作品の完成度、また、習った技能が修得できているかどうかを評価する。具体的にいうと、計算問題や漢字などの基本問題がどの程度できているかが評価の対象となる。
思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。 テスト・ノートに書かれている内容や発言の内容、発表する際の様子などから評価する。たとえば、「知識・技能」が単純な計算問題なら、文章題のように考えながら解いていく応用問題で評価されるような観点です。
主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。 まじめに取り組んでいるか、友達と協力できているか、積極性はあるか、などが評価の対象となります。テストで判断することができないため、先生が普段の学習態度を見ながら評価をしたり、提出されたものの内容変容等から評価をします。

各教科における観点別の学習の様子は、各観点についておおむね目標を達成している項目を「よい」、さらに努力してほしい項目を「がんばろう」としています。また、「よ

い」の中でも特に優れている項目を「たいへんよい」としています。

一学期の「あゆみ」を受け取るまでには、一か月余りありますが、保護者の方には評価内容を知っていただいたうえで、子どもたちの学習成果物(テスト・作品等)やノートを日ごろから見ていただきながら、褒めて励ましたりして学習意欲を持たせ、子どもたちの家庭学習が定着できるようご指導ご支援ください。

通知表を見て、保護者の方にしていただきたいことを挙げておきます。



「よい」の数を数えるだけではもったいない

よい成績が何個ついているかだけを見て、ほめたり叱ったりしても子どもの成長に役立つとは限りません。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」3 観点の評価を見ると、基本問題はできているけれど応用問題が弱いといったことなどがわかり、改善すべきところが見えてきます。改善点をフォローすることで、子どもは成長していくことができるはずですが、通知表で子どもの日頃の活動がすべてわかるわけではありませんが、成績のよい・悪いだけで安易に判断しないことが大切です。

がんばったところをほめる

各教科観点別状況の他に連絡として「所見」の欄があります。子どものがんばったところが書かれている場合が多いです。(本年度から「所見」の記述は年度末にのみになります。これまで所見に記載されていた内容については懇談会でお話をします)系の活動や友達との関わりなど、家庭ではわからないような子どもの姿が見えてくるはずですが、子どもが学校でどのようなことをがんばっているのかを想像し、成長したところをたくさんほめてあげましょう。

通知表に疑問があったら先生に聞いてもよい

テストでは毎回 100 点だったのに評価がよくない、わが子の性格とは異なるような所見になっているなど、通知表に疑問がある場合は担任の先生に尋ねてください。テストの点数がよくても提出物がきちんと出ていなかったり、家庭では見せない姿を学校では見せていたり、授業態度が悪かったりすることもあります。先生に確認することで、家庭でフォローできることが見えてくることもあるでしょう。

このように、「あゆみ」は、子どものやる気を起こさせる資料として、さらに学校と家庭とが連携し合い、お互いに温かい指導を積み重ねていくことを目指しています。

お子様といっしょにご覧いただき、お子様の「あゆみ:歩み」について話をしてください。